



建学の精神

創立者ドージャーは来日から10年後の1916年(大正5)4月、多くの困難を乗り越えて(私立西南学院)を設立。第2代院長として西南学院の育成に心血を注ぎましたが、1933年(昭和8)54歳でこの世を去りました。ドージャーが最後に言い遺した「Seinan, Be True To Christ.(西南よ、キリストに忠実なれ)」という言葉は、建学の精神として受け継がれ、西南学院の精神的基盤となっています。



西南学院 校章・マーク
学院草創期に、C. K. ドージャーによって発案されました。西南の英語表記 SOUTHWESTERN の略称 S と W を組み合わせ、当時としては大変モダンなデザインでした。

学校法人 西南学院

〒814-8511 福岡県福岡市早良区西新6-2-92

TEL : 092-823-3250 FAX : 092-823-3515



創立

西南学院はアメリカ南部バプテスト派の宣教師 C・K・ドージャーによって、1916年(大正5)福岡市に設立された男子中学校(私立西南学院)から始まりました。

アメリカ南部バプテストの九州伝道は、1892年(明治25)宣教師の J・W・マッコラムによって始められ、10年以内に熊本、長崎、鹿児島などに教会を設立することができませんでした。それとともに、日本人伝道者の養成が必要とされ、1907年(明治40)福岡バプテスト神学校が開設されましたが、アメリカ北部バプテストの経営する横浜バプテスト神学校と合併し、1910年(明治43)東京で日本バプテスト神学校となったため短命に終わりました。

宣教師社団の書記であったドージャーは、1911年(明治44)神学校が移転して使われなくなった大名町の校舎で、福岡バプテスト夜学校を始めました。やがてジャドソン宣教100年を記念した募金運動が展開され、その募金の一部で福岡に再び男子中学校を開校することが決まりました。

初代院長には篠猪之彦が就任。しかし病身であったために、実務は主事のドージャーの双肩にかかることとなり、結局、2代院長に38歳のドージャーが就任し、以来13年間、その重責を果たすことになりました。

1919年(大正8)に学校令が改正され、西南学院でも1921年(大正10)大学の前身となる高等学部を開校。当時、九州・中国地方において、キリスト教主義の高等学校は1校もなく、官学に匹敵する教育内容と知的水準を満そうと、当初から少数教育と4年制教育を採用しています。文科と商科からなりましたが、商科でも英書がテキストとして使われるなど、(語学の西南)の伝統をつくりました。

ドージャーの死後、国情は急速に戦時体制へと向かっていきました。当時、学院は大学設立の準備を進めていましたが、国情悪化のため計画の中断を余儀なくされました。1949年(昭和24)新制大学として西南学院大学が開校。当初はアメリカのリベラルアーツ・カレッジの形式をとる予定でしたが、学部のない大学は認めないという国の指導もあり、学芸学部としてスタート。その後、文科系総合大学として発展しています。

創立の背景と歴史

当時の九州では、アメリカメソジスト監督教会が長崎に女子の活水学院(1879年(明治12))、男子の鎮西学院(1881年(明治14))を、北アメリカルuter教会が熊本に男子の九州学院(1910年(明治43))を開校していました。進学者が少なかったこの時代には、キリスト教主義の学校を経営するためには1県に1校がせいぜいだったため、西南学院の開校にあたっては、長崎と熊本以外に適地が求められました。そして、古くは平安時代から外国の使節を迎える施設が設置された福岡が、外国に開く窓として選ばれたのです。

西南学院の創立者チャールズ・ケルシィ・ドージャーは、1879年(明治12)アメリカのジョージア州ラ・グレインジユの町に生まれました。13歳のときに、その生涯をキリストに献げることを決心し、マーサー大学、南部バプテスト神学校を卒業しています。しかし父の経営する金物店が倒産し、父が健康を害したために、2年間短期学校の教師を務めた末の復学でした。1906年(明治39)6月に神学校で一緒に学んだモード・A・パークと結婚。日本宣教師の先輩 C・T・ウィリングハムの強い勧めで、同年9月に南部バプテストの宣教師として、夫妻で来日しました。

ドージャーは常に精力的に働きました。福岡バプテスト夜学校を始めた翌年、休暇で帰国中のときも、母校ルイヴィルの南部バプテスト神学校において学校経営の準備・研究をしています。また、第一次大戦の勃発によって、ジャドソン宣教100年記念の募金が思うように集まらなかったことから開校が1年延期されたときには、ドージャーは京都の同志社、大阪の桃山学院、神戸の関西学院を訪ねて調査を行ない、諸規則の翻訳に多くの時間を費やしました。また、西南学院が当初から104人の生徒と9人の教職員という体勢で始まった背景には、小学校教師を招いて説明会を開くなど、入学者の募集に奔走したドージャーの努力があったのです。献身は本人だけに留まりません。夫人のモードは学校で英語を教え、婦人会連合の指導者を務めました。子女であるエドウィンとヘレンも、日本宣教に献身し、エドウィンは西南学院の第9代院長を務めています。

大名町から西新の現在地に西南学院が移った際に、関係者から学院の近くに教会を設立しようとの声が上がリ、1922年(大正11)西南学院バプテスト教会が組織され、ドージャーは牧師に就任して西南学院の院長と兼務しました。1926年(大正15)からは同教会の牧師の任を辞し、院長の職務に専心するようになりました。

喜怒哀楽を包み隠さず表現し、熱い心を持ったドージャーは多くの人から敬愛されましたが、安息日を厳密に守るという点で、主に運動部の学生と対立し、とうとう院長排斥ストにまで発展してしまいました。辞意を表明したドージャーの意向は、翌年の1929年(昭和4)に受け入れられ、愛して止まなかった西南学院を去ることになりました。

1年間の休暇をアメリカで過ごしたのちに、再び来日。下関に居を構え、北九州地域の伝道に努めました。しかし、心臓病が進行して1933年(昭和8)5月31日、54歳で天に召されました。病床でモードに「私は片時も西南学院のことを忘れたことはない。その西南学院に、くれぐれもキリストに忠実であるように伝えてほしい」と言い遺しました。



創立者 Charles Kelsey Dozier (1879~1933年)
生涯をかけて西南学院を思い、キリストに忠実に生きた熱血の人でした。

